

2026年度 予算を可決 しました

2月17日、2026年の第1回定例会を開会しました。会期は5月26日までの99日間です。2月議会（2月17日～3月27日）では2026年度予算および関連議案を中心に審議しました。

（市長提出98件、議員提出1件、合計99件）

2月17日の本会議において、久元市長および関係局長から2026年度予算および関連議案について説明を受けました。2月24日・25日には各会派の代表者が質疑を行いました。その後、予算特別委員会を設置、局別に審査を行いました（主な内容は2～4面をご覧ください）。審査の結果、全ての議案を可決しました。

第1回定例会【2月議会】の動き

2/17	本会議	○ 開会 ○ 議会の委任に基づく市長専決処分などの報告 ○ 議席の一部変更 ○ 会期決定 ○ 人事案件の指名 ○ 2026年度当初予算などの議案の提案 ○ 2025年度補正予算などの議案の提案・質疑
2/18・19	常任委員会	○ 2025年度補正予算などの議案および陳情の審査
2/24・25	本会議	○ 2025年度補正予算などの議案の討論・採決 ○ 2026年度予算および関連議案に対する会派代表の質疑 2・3面でご紹介 ○ 予算特別委員会設置
2/26～3/16	予算特別委員会	○ 2026年度予算および関連議案、陳情の審査 4面でご紹介
3/18	本会議	○ 法令に基づく議会への報告
3/19・23	常任委員会	○ 請願・陳情の審査など
3/26	本会議	○ 人事案件の提案・採決 ○ 2026年度予算および関連議案の討論・採決 ○ 請願の討論・採決 ○ 議員提出議案の提案・採決
3/27	本会議	○ 一般質問 4面でご紹介

後半の5月議会は2026年5月11日（月）から5月26日（火）までの予定です。詳細は市会ホームページをご確認ください。→



議決した主な議案

2026年度当初予算

一般会計、特別会計、公営企業会計の総額2兆146億円で、いずれも原案どおり可決されました。2026年度予算は、全国的な少子・高齢化に伴う人口の自然減が加速する中、オールドタウン化や都市のスポンジ化に対応するなど、人口減少時代にふさわしいまちづくりを目指す予算となっています。

2025年度補正予算

物価高騰などの影響を受ける市民・市内事業者への支援やKOBE◆KATSUの推進、神戸空港の国際化を踏まえた対応などを着実に進めるとともに、住宅供給による豊かなライフスタイルの実現など、くらしの質・都市の価値を高める施策を進めます。

議員提出議案

●神戸市市会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例

旅費条例の改正を含む神戸市職員の給与等に関する条例等の一部を改正する条例が可決されたことを受けて、旅費条例を準用する神戸市市会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例を改正しました。

人事案件

阪神水道企業団議会議員の選挙を行いました。また、神戸市人事委員会委員の選任や神戸市公正職務審査会委員の委嘱に同意しました。

2026年度予算に対する各会派の賛否一覧

○=賛成 ×=反対

件名	自	維	公	共	こ	新	躍	つ	無 平野章	無 上原	無 なんの	結果
一般会計/国民健康保険/自動車	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	可決
市場/食肉センター/母子父子寡婦福祉資金貸付/公債/工業用水道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
駐車場/市街地再開発/市営住宅/介護保険/後期高齢者医療/空港整備/下水道/産業団地整備/港湾/高速鉄道/水道	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	可決

福祉・健康

本会議での各会派の代表質疑から

2月24日・25日の本会議では、2026年度当初予算とそれに関する議案について、市長・副市長などに質疑しました。その主な内容をご紹介します。

議員名（会派届出名の略称、選挙区）

録画映像は神戸市会ホームページでご覧いただけます。

神戸市会 中継 | 検索



2月24日



2月25日

2月24日の代表質疑から

認知症神戸モデルの今後のあり方

Q 認知症神戸モデルは超過課税を財源とするが、新薬対応など費用増加が見込まれる中、社会全体で認知症の方を支える制度趣旨の理解促進に加え、個人賠償責任保険の推奨を検討してはどうか。また、成年後見制度における任意後見制度の利用促進など、制度をアップデートしてはどうか。



やました 山下 てるせい 議員 (自由民主党/西区)

A 広報紙をはじめさまざまな媒体で周知しているが、転入者向けなど新たな観点からの周知も検討したい。事故救済制度については、まずは歳出・歳入の状況を見定め、持続可能性の検証と必要な見直しを行う。成年後見制度の早期利用につながる仕組みの充実にも取り組む。

2月24日の代表質疑から

高齢者の住居確保

Q 一人暮らしの高齢者が増えているが、賃貸住宅の入居を断られるケースがあると聞いており、住宅を借りやすくする環境づくりが大切である。高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、また大家も安心して貸せるように、一層の支援策を講じるべきではないか。



たかせ かつや 高瀬 勝也 議員 (公明党/灘区)

A 本市では、セーフティネット住宅(※3)の登録促進、大家のための相談窓口やセミナーの開催などに取り組んでいる。また、2025年10月に制度が開始された「居住サポート住宅(※4)」は、安否確認・見守りなどのサポートが付いており、高齢者も大家も安心できる仕組みであるため、制度の周知を図りたい。

2月25日の代表質疑から

国民健康保険財政

Q 不正に社会保険に加入し国民健康保険から脱退するいわゆる「国保逃れ」を見逃していると、真面目に保険料を納める被保険者との間に不公平が生じ、制度の信頼性を毀損して制度そのものが成り立たなくなる。市は、まず不正には厳格に対応するというメッセージを発信し、国に対処を求めるべきではないか。



かわぐち 川口 まさる 議員 (躍動の会/灘区)

A 当該事例は、健康保険制度全体の信頼低下を招き、今後の保険料徴収への影響が懸念される。社会保険の適用の問題であり、厚生労働大臣などが調査を行うものと認識していることから、引き続き国の動きを注視しつつ必要に応じて国への働きかけを検討したい。

2月25日の代表質疑から

医療的ケア児者家族の在宅レスパイト支援(※5)

Q 訪問看護事業者が実施する医療的ケア児者の見守り介護に対する支援制度を創設することである。しかし、対象者1人当たりの利用上限は年間96時間であり、1カ月当たり8時間では、ケアする家族のニーズに対応しきれないと思うがどうか。



かがわ しんじ 香川 真二 議員 (つなぐ/西区)

A 上限年間96時間は、参考とした先行他都市で多くある例の年間48時間より長い。また、1人当たりの平均利用実績は、各都市とも設定上限時間の半分未満という状況もある。新たに取り組むを行っていく中で、実績や利用者および事業者など関係者の声を聞きながら事業内容を検証していきたい。

教育・こども

2月24日の代表質疑から

不登校児童の居場所づくり

Q 不登校の原因は多様で学校に代わる居場所としてどのような場所が必要かは、人によって違う。川崎市子ども夢パークのような自然の中で自由に過ごし、発散できる場所の整備は、住宅地近くに里山の自然がある神戸にとって親和性が高いと感じる。このような拠点の設置や自然環境の中で学べるプログラムの検討を進めてはどうか。



ひらい まちこ 平井 真千子 議員 (自由民主党/長田区)

A 他都市の取り組みも参考にしつつ、くすのき教室(※1)で行う野外活動などのプログラムの充実を図るとともにフリースクールとの連携を強化することで、不登校児童生徒をはじめ、子どもたちが自然環境で学べる機会の充実に取り組んでいきたい。

2月24日の代表質疑から

教育におけるデジタル機器利用ルールの検討

Q デジタル機器、スマホの使用については便利で楽しいが、学童期の脳の発達などが問題視されており、子どもの使用を制限する国もある。教育ではデジタル機器の利活用を進めているが、この問題をどう捉えているのか。心身ともに健康な子育てができるまちという観点からも対策を検討すべきではないか。



よしだ けんじ 吉田 謙治 議員 (公明党/西区)

A 学校教育では児童生徒の状況を踏まえ、デジタルとリアルの最適な組み合わせを目指すべきと考えている。スマホに関するフォーラムの開催などの取り組みも実施しているが、国の議論の方向性も注視しながら、関係部局が連携し適切な対応について検討していきたい。

2月25日の代表質疑から

起立性調節障害に苦しむ児童生徒への対応

Q 起立性調節障害(※2)の児童生徒の現状の把握に加え、理解を促進するためのガイドラインを策定し、学校関係者だけでなく地域の人、全ての子どもたちへの啓発を行うなど、医療的アプローチも含めた不登校支援に取り組むべきと考えるがどうか。



いとう めぐみ 伊藤 めぐみ 議員 (こうべ未来/北区)

A これまでも児童生徒の状況把握、教職員への研修や保護者への周知などに取り組んでいる。学校関係者のより正しい理解が悩んでいる児童生徒や保護者への支援の第一歩になることから、他都市のガイドラインも参考に、まずは保健指導の手引きの充実を図るなどし、教職員・保護者双方の一層の理解促進に努めていきたい。

KOBE◆KATSU

2月24日の代表質疑から

KOBE◆KATSUの円滑な実施に向けた施策

Q コベカツにおいて市有施設を減免利用できるというメリットを活用するために、予約枠を別途設けるなど、場所の確保に関するハードルを下げるべきではないか。また、コベカツと一般の利用者、双方の活動が制限されないよう調整が必要ではないか。



むらかみ たつま 村上 立真 議員 (自由民主党/兵庫区)

A コベカツは原則中学校を拠点とするが、市有施設を希望する場合は一般利用者に大きな制限が出ない範囲で、可能な限り定例活動の拠点として優先利用できるよう調整し、使用料などを無料とする予算も計上している。施設ごとに事情を勘案し、一般利用者とのバランスをとりつつ、引き続き柔軟な調整をしていく。

2月24日の代表質疑から

持続可能なコベカツクラブへの運営支援

Q 低廉な会費設定による運営難を理由にコベカツクラブが撤退し、子どもたちの貴重な活動機会が失われることがあってはならない。子どもたちの多様な選択肢を将来にわたって確保する観点から、クラブへの運営補助など持続可能性を担保するための具体的な検討が必要ではないか。



くろだ たけし 黒田 武志 議員 (日本維新の会/西区)

A 「コベカツサポート」による保護者が負担する会費の支援や、生徒のコベカツ参加促進によるクラブ運営の間接的な支援のほか、「コベカツ支援基金」を活用した継続的な施設・備品の整備・更新による支援や、運営に関する相談窓口の設置により、持続的運営のための総合的支援を行いたい。

2月25日の代表質疑から

ユース世代の育成

Q 経済的な事情や送迎などの条件により、コベカツで希望する活動ができない子どもたちが出てきた場合、青少年育成会館やユースステーション、ユースプラザが中学生の放課後の居場所の一つとして再注目されると予想されるが、ユース世代の今後の育成について伺いたい。



いさやま だいすけ 諫山 大介 議員 (こうべ未来/灘区)

A 中高生世代がやりたいことに挑戦し、安心して仲間づくりや多世代交流できる活動拠点を各区に設置している。コベカツ開始後は、放課後の居場所の一つとしてより多く利用してもらえるよう、SNSなどの広報や交流イベントの活性化など、さらなる魅力向上に努め、若者の育成につなげる。

2月25日の代表質疑から

テクノロジーを活用した医療分野の生産性向上

Q 国は業務効率化や職場環境改善のためのICT機器などの導入を進める医療機関への支援事業を実施予定である。経営が逼迫し経営改善と職員の業務改善が喫緊の課題である中央市民病院に対して、事業採択を目指すよう働きかけてはどうか。

ひらの しょうざん
平野 章三 議員
(無所属/垂水区)



A 中央市民病院では抜本的な経営改善に取り組んでおり、ICT導入による効率化も進めているが、さらなる医療テクノロジーの導入のため、国事業の活用について市民病院機構と協議をしていきたい。

交通

2月25日の代表質疑から

市バスの減便見直し

Q 神戸市営交通事業経営計画2030では、黒字・赤字路線関係なく、市バスの大幅減便が計画されている。便数が減ると混雑し、立って乗ることが当たり前となり、高齢者や通院の方が座れるような配慮もなくなる。転倒事故も起こっており減便計画は見直すべきではないか。

おお すすこ
大かわら 鈴子 議員
(日本共産党/兵庫区)



A 市バス事業の経営環境は厳しく、全国的に運転士不足に直面しており、今すぐ経営改善を進めなければ事業継続が困難になる。需要と供給のバランスを取っていくことで、持続可能なバス路線網への転換を進める。引き続き地域住民や利用者に丁寧に説明し、ご理解いただけるよう進めていきたい。

2月25日の代表質疑から

市バス64系統の通勤通学時間帯も含めた大幅減便

Q 満員の64系統の37減便により、立席前提で質の低下を強いるうえ、夜間の待ち時間10分が20分になり神戸北町の居住価値にも影響を及ぼしかねない点と、一方で乗客4人程の62系統を増やす矛盾の説明を求める。

うえはら
上原 みなみ 議員
(無所属/北区)



A 厳しい経営状況などを踏まえ、持続可能性を担保するため、利用が3割減少した64系統については需要に見合う供給へ見直す。62系統のダイヤ編成は北神地域の交通利便性向上・災害時の移動経路複線化が目的である。

経済

2月24日の代表質疑から

神戸空港の機能強化

Q 今後、神戸空港や空港島全体の価値を高め、民間事業者にとって魅力的な投資先としていくために、スピード感を持って空港の機能を強化していくべきである。2030年4月の国際定期便就航を見据えて、第2ターミナルの機能強化は、どのような方針で進めていくのか。

むらかみ たつま
村上 立真 議員
(自由民主党/兵庫区)



A 第2ターミナル南側の国際便が駐機するエプロン(※6)へ接続するボーディングブリッジ(※7)の整備や搭乗待合室、出入国審査場の拡張に加え、商業施設、ラウンジの充実など、空港に必要な機能の確保に加えて、利便性の向上が必要であり、国際定期便の就航に向けて受入環境の整備をしっかりと進めていく。

2月24日の代表質疑から

関西エリアにおけるAI分野での連携

Q 大阪府はAI関連企業誘致の推進、生成AIを活用した製品開発に挑戦するスタートアップへの支援を行っている。神戸市もAI分野の人材育成に取り組んでいるが、技術革新が飛躍的に進む中、一自治体だけでは世界の潮流に取り残される可能性が高い。周辺自治体とも連携する必要があるのでは。

いわたに
岩谷 しげなり 議員
(日本維新の会/兵庫区)



A 本市にはアジアで唯一のマイクロソフトAIコ・イノベーション・ラボ(※8)が所在し、また計算科学分野の先進的な知見がそろっていることから、今後周辺自治体との連携もさらに深めつつ、神戸・兵庫、さらには関西エリア全体の経済成長につながるよう取り組んでいきたい。

2月24日の代表質疑から

奨学金代理返還制度の周知

Q 市内企業で働く魅力づくりの一つとして、奨学金代理返還制度の普及が大切であるが、まだ導入企業が少ない。神戸に住んで働く若い方を応援するため、市内企業に導入していただけるよう積極的に働きかけるべきではないか。

たかせ かつや
高瀬 勝也 議員
(公明党/灘区)



A この制度は事業者が従業員に代わり奨学金返還残額を直接返還するもので、税制上のメリットもある。奨学金返還に対する支援は市内企業の魅力向上につながり、若年層の転入促進や転出抑制に効果があると認識しており、合同企業説明会や企業との交流会など、さまざまな機会を通じて制度の周知を行い、若年層の採用支援、定着支援に努めたい。

2月25日の代表質疑から

物価高騰対策のあり方

Q 物価高騰で苦しむ多くの市民への対策の鍵は賃上げだと考えるが、従業員への賃上げをしたくてもできない事業者がたくさんある。5つの指定都市が賃上げを要件にした支援を実施しており、神戸市でも直接的な賃上げ支援をすべきではないか。

あかだ
赤田 かつり 議員
(日本共産党/垂水区)



A 本市では、事業者が収益性を高め、自ら生み出した原資で持続的な賃上げを実現できるよう、一時的な支援ではなく経営改善や販路開拓などの支援を行ってきた。2026年度予算でも賃上げの原資確保に資する支援策などを計上しており、これらを着実に進めるとともに、事業者の声も聞きながら効果的な施策を行っていきたい。

2月25日の代表質疑から

KOBEデジタル図書券の発行

Q 神戸「本」の文化振興プロジェクトの推進策として、市内書店で使える「KOBEデジタル図書券」を各種イベントで配布してはどうか。たとえ少額でも有効期限を長めに設定すれば、別イベントでポイントを集めて書店に向かえる。既存のクリアファイルやボールペンなど各局がバラバラに用意するノベルティに比べ、イベント参加率の向上、図書の購買や読書行動など市民のより本に親しむ行動変容につながると期待できるが見解を伺いたい。

むらの せいいち
村野 誠一 議員
(新しい自民党/須磨区)



A 図書券が少額でも良いのではないかとこの提案を踏まえデジタル図書券については2026年度に試行的に配布を検討したい。

まち

2月24日の代表質疑から

海岸線沿線の活性化

Q 地下鉄海岸線の減便が発表されたが、赤字の常態化は将来世代へ大きなツケを回す。公営住宅の老朽化や空き家の増加、沿線の製造事業者数減少など、このエリアは転換期に入りつつある。中長期的な視点から、容積率や用途規制の見直しを図り、人口誘導や民間投資を喚起してはどうか。

いわたに
岩谷 しげなり 議員
(日本維新の会/兵庫区)



A 今後、社会情勢の変化に伴い大規模な土地利用転換が生じる場合には、地域にふさわしい施設の立地に向け、都市計画提案制度の活用による柔軟な都市計画の見直しを検討するなど、土地の利活用の可能性を模索しながら、海岸線の利用促進とエリア全体の活性化につなげていきたい。

2月25日の代表質疑から

六甲アイランドの将来像

Q 六甲アイランド内は個々の施設や機能が一定程度充実してきているものの、まち全体のにぎわいが十分に創出されていないのではないかと。市として六甲アイランドのにぎわいの創出に向け今後どのような視点で機能充実を図っていくのか。

なんの ゆうこ 議員
(無所属/東灘区)



A 島外からも来街者を取り込むようなにぎわい・集客機能の導入を図る中で、地域の皆さんにもご利用いただけるような商業施設の立地も含め、早期の事業化に取り組み、まち全体の活性化を図ってきたい。

用語説明

- ※1【くすのき教室(教育支援センター)】
自校に在籍しながら学習支援やカウンセリングなどを行い、学習意欲・自立心・社会性を育て、主体的な社会的自立を目指している。
- ※2【起立性調節障害】
自律神経の動きの不調のため起立時に身体や脳への血流が低下する疾患で、小学校高学年から中学生にあたる思春期の子どもに多く見られる。主な症状は、立ちくらみ、起床困難、頭痛など。
- ※3【セーフティネット住宅】
高齢者、障がい者、子育て世帯などの住宅確保に配慮が必要な方の入居を拒まない賃貸住宅。
- ※4【居住サポート住宅】
居住支援法人などが大家と連携し、入居中のサポートを行う賃貸住宅。
- ※5【レスパイト支援】
在宅で介護や育児を行う家族が、一時的に休息をとれるよう、施設や専門スタッフが代わってケアを担うサービス。
- ※6【エプロン】
乗客の乗降などのために航空機を駐機させる区域。
- ※7【ボーディングブリッジ】
空港ターミナルビルと駐機中の航空機をつなぐ旅客搭乗橋。
- ※8【マイクロソフトAIコ・イノベーション・ラボ】
マイクロソフト社のAIに関する知見やテクノロジーを適用させて新たなビジネスやイノベーションを生むための施設。

予算特別委員会の質疑から

予算特別委員会では、2026年度当初予算および関連議案について審査しました。委員会は、2月25日に設置され、2月26日から3つの分科会で局ごとに審査した後、3月12日には総括質疑を、3月26日には市長に対して要望を行いました。

議員名(会派届出名の略称、選挙区)

予算特別委員会
議員62名で構成
委員長 植中 雅子
副委員長 原 直樹
門田 まゆみ
大かわら 鈴子

録画映像は
神戸市会ホームページで
ご覧いただけます。→



神戸市会 中継 | 検索

3月12日

3月12日の予算特別委員会から

神戸市カメラの充実

Q 学校周辺や公園トイレ付近などへの神戸市カメラ(※1)の重点設置は、市民の体感治安を高めることにつながる。一方、犯罪の未然防止の観点からは、AIで不審な動きをする人物の検知や威嚇する機能などを持つ防犯カメラの導入を検討してはどうか。

よしだ けんご 議員
(自由民主党/灘区)



A 警察庁がAIカメラによる犯罪抑止の研究を企業と進めており、さまざまな観点からの検討が必要ではあるが、本市においても、技術レベルや企業・他都市の活用状況などを調査・分析し対応を検討していきたい。

3月12日の予算特別委員会から

個別最適な学びの推進

Q 教育の充実は、ファミリー世帯から選ばれる都市としての魅力向上に資する。自ら学ぶ力を育む個別最適な学びの推進、国際都市神戸の重要課題であるグローバル人材育成の観点から、中高一貫校の設置や国際バカロレア教育(※2)の導入を検討してはどうか。

さとう まちこ 議員
(日本維新の会/垂水区)



A 本市では、主体的な学びを重視した探究活動や、国際都市としての特色的な学びの充実に努めているが、市立高校が果たすべき役割、生徒・保護者のニーズを考えながら、特色化や魅力化に努めていきたい。

3月12日の予算特別委員会から

エスコートゾーン整備の加速

Q エスコートゾーン(※3)は視覚障がい者が安心して社会に参加できる都市の象徴的なインフラであり、その整備を着実に進めるべきと考える。警察と連携し、神戸市が計画的に整備を進めていく仕組みを検討してはどうか。

みぶ じゅん 議員
(公明党/垂水区)



A 誰もが安心して歩ける安全なまちづくりに向けて、他都市の整備事例も踏まえながら、本市が主体的に整備する仕組みづくりについて、警察と協議・調整をしていきたい。また、視覚障がい者団体のご意見も伺い、優先整備箇所を整理していきたい。

3月12日の予算特別委員会から

市バスの廃止減便とオールドタウン対策の関わり

Q オールドタウン化に苦しむ地域での市バス路線の廃止縮小は、さらに住みにくくする負のスパイラルを神戸市が起こすものである。これが市長のいう人口減少時代にふさわしいまちづくりなのか。

あじくち としゆき 議員
(日本共産党/灘区)



A 市バス事業は、人口減に伴う利用者の減少や経費高騰により極めて深刻な状況であり、市民の移動手段確保のために路線・ダイヤの最適化が必要である。見直しに当たっては、住宅地から最寄り駅までの移動手段を確実に確保し、交通空白地が生じないように努めている。

3月12日の予算特別委員会から

「森の未来都市神戸」推進本部の取り組み

Q 神戸の森林・里山施策では、2025年度に立ち上げた「森の未来都市神戸」推進本部のもと、官民や庁内の横断的な連携を強化し、施策を推進している。これまでの取り組みの総括と、森林・里山整備の牽引役として、神戸市が具体的に果たす役割を伺いたい。

かじ ゆきお 議員
(こうべ未来/西区)



A 森林整備への支援や関係者の連携に重点を置いて施策を進めてきた。森林資源循環モデルを示し、多様な主体との協働により、森林・里山の関係者が持続的に森林管理に取り組める仕組みを整えたい。

用語説明

- ※1 【神戸市カメラ】 子どもや女性に対する犯罪防止を主な目的として設置した防犯カメラ。
- ※2 【国際バカロレア教育】 スイスの「国際バカロレア機構」が提供する、グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材育成を目的とした教育プログラム。
- ※3 【エスコートゾーン】 視覚障がい者が横断歩道から外れることなく道路を渡れるように、進行方向の手がかりとする点字ブロックのような突起状の設備のこと。

質疑した他の議員(総括質疑)

- 岡田 ゆうじ 議員(新しい自民党/垂水区)
- ひらの しょうざん 議員(無所属/垂水区)
- おおい としひる 議員(躍動の会/須磨区)
- うえはら みなみ 議員(無所属/北区)
- あわはら 富夫 議員(つなぐ/中央区)
- なんの ゆうこ 議員(無所属/東灘区)

会派構成の変更

なんのゆうこ議員(無所属)が4月1日付で「自由民主党神戸市会議員団・無所属の会」に入会しました。

一般質問

3月27日の本会議で、議員がそれぞれの立場・観点から、市政一般について市長・副市長などに質問しました。

議員名(会派届出名の略称、選挙区)

録画映像は
神戸市会ホームページで
ご覧いただけます。→

3月27日



うえはた のりひろ 議員(自由民主党/東灘区)

- ①天津事務所における中国人民解放軍退役軍人の雇用問題
- ②神戸空港における運休中の中国便の今後
- ③非核神戸方式の違法性
- ④北朝鮮による神戸市民を含む拉致問題の解決と啓発
- ⑤朝鮮学校への補助金交付問題

ひらの たつじ 議員(自由民主党/兵庫区)

- ①既成市街地におけるエリア価値向上と住宅・子育て環境の整備
- ②市バス事業における運行効率化と利便性向上
- ③外国人の生活実態を踏まえた福祉制度の適正なあり方

けいいち のまち 圭一 議員(日本維新の会/中央区)

- ①神戸空港島の将来構想
- ②国際的な医療研究・教育拠点としての機能強化
- ③新長田活性化の起爆剤
- ④神戸市室内管弦楽団
- ⑤オープンデータの利活用
- ⑥GREEN×EXPO2027
- ⑦山の手ふれあいのまちづくり協議会の活動拠点

いわさ けんや 議員(公明党/東灘区)

- ①魅力的なコベカツフェスティバルの開催
- ②市バス版U-15定期券の導入
- ③シニアディスコによるフレイル予防
- ④歴史資源・文化財を活かした観光施策
- ⑤幼児教育・保育施設前のカラー化
- ⑥高次脳機能障がい者への支援
- ⑦地域共生サポーターの活動フィールド
- ⑧被災者支援に向けたDXの推進

もりた たきこ 議員(日本共産党/西区)

- ①男女の賃金格差の解消
- ②高校生通学定期補助の拡大
- ③農業への支援
- ④有機フッ素化合物PFAS
- ⑤伊川谷駅のバスロータリーの上屋改修

よこはた かずゆき 和幸 議員(こうべ未来/中央区)

- ①人口減少下の自治体経営
- ②総合基本計画の理解浸透に向けた取り組み
- ③落書き対策としてのウォールアートの推進
- ④まちの魅力を再発見できる取り組み
- ⑤犯罪から子どもたちと市民を守る取り組み

神戸市会の情報サイト「神戸市会ナビ」



神戸市会の役割や市会議員の議会活動について、わかりやすく紹介しています。



インターネット中継をご覧ください

本会議・委員会の模様は、インターネットで生中継をご覧いただくことができます。スマートフォン・タブレットでもご覧いただけます。

